



他人の価値観に理解と尊重を ～2学期終業式 校長講話より～(要旨)



みなさんこんにちは。2学期はクリスマスイブの今日で終わりになります。8月から始まった一番長い学期である2学期。コロナ禍で大変だった8月の学期明けを思い返すと、ずいぶん昔のこのように感じますね。こうして1日1日最善を尽くして皆さんとともに生活してきました。

校内に目を向けてみますと、9月以降デルタ株の感染者が減少してきたことにより、先日の劇団わらび座による「松浦武四郎」のミュージカルが復活公演できたことも皆さんの記憶に新しいうれしい出来事でした。この物語から多くのことを学び取ることができました。私は特に二点感じました。

一つは心を開きコミュニケーションをとることの大切さです。特に4月の新学期には皆さんも経験あるでしょう。勇気をもって新しい人に話しかけ、相手も笑顔で話を返してもらった時の喜びを。挨拶をして返してもらった時のうれしさを。

二つ目は、他人の価値観を理解し、尊重することの大切さです。武四郎は他の日本人が「アイヌはバカだ」という言葉には耳を貸さず、曇りのない目で彼らを見てその精神の崇高さに心を打たれます。自分と違う相手をさげすんで悪口を言っても、そこには憎しみしか生まれません。逆に相手の良い点を見つけて尊重することができれば、もっと私たちの身の回りは過ごしやすい環境になると思います。

さて、12月に入り、行事だけではなく日常生活の中でもうれしいことがありました。それは、新生徒会の皆さんが昇降口に立ち挨拶運動を行ったことです。田村生徒会長から始まった挨拶運動は今の3年生へ、そして現生徒会に受け継がれていることに感動を覚えました。3年生の元生徒会役員に訊いてみると、大変うれしいという言葉が返ってきました。先にお話しした、心を開きコミュニケーションをとることも、他人の価値観を理解し尊重することも、まずは挨拶から始まります。私は3年間朝の昇降口に立ち続けましたが、一昨年より今年のほうが、昨年より今年のほうが皆さんは良い挨拶を返してくれます。これからも皆さんがそれぞれ良い行いをして、この学校をもっともっといい学校にしていきましょう。 良いお年をお迎えください。

困ったお話(その55) (リアル賢者の贈り物)

「お父さん、クリスマスが近づいたのでお父さんへのプレゼントはこれでいいわよね。」

私が庭で落ち葉を片づけていると、妻は落ち葉入れの竹細工のカゴを指さした。確かにこのカゴは戸隠で購入以来20年使い続けて、痛みが激しく困っていた。替え時だ。

だがさてよ、私の心に疑念がわいた。ふつうクリスマスプレゼントって、ネクタイとかマフラーとか個人がセンス良く愛用できる舶来品の気がする。妻も使う竹カゴがその範疇に入るのか？ここは男らしく「それは家族で使う日用品だから、プレゼントにならない！」と言おう。私はビシッと妻に言った。

「はい！」

3時間後、私たちは竹カゴを買うために長野市東和田にある吉沢金物店にいた。店に着いたら、昨年のプレゼント(薪ストーブの煙突そうじ用ブラシセット)もここで買ったことを思い出し、毎年プレゼントという名の日用品が増えていく事実気がついた。

さて、いいカゴがあったので買ってもらうと、妻が昨年と同じことを言ったことにも気がついた。

「これでしっかり働くんだぞ。」

